

マンガ「片町夜曲(セレナーデ)」 # 29 原作シナリオ

山崎浩治

マンガ「片町夜曲(セレナーデ)」 # 29 原作シナリオ

1 「居酒屋まわりみち」店内(夜)

カウンター内にアヤカと末吉、客に杏子やキヨさんの顔が見える。

末吉「(杏子に)年下のカレシとはいつ結婚するんや」

杏子「(平然と)あれは嘘。ああでも言わないとあの人、離婚してくれないから」

アヤカ・末吉「(口あんぐりで絶句)……」

杏子「(錠剤を口に放り込み、ジョッキのビールを豪快に飲み干して)マスター、お勘定！」

勘定を済ませて店を出て行く杏子。

アヤカ「毎度あり！(とカウンターの片付けを始める)」

キヨさん、アヤカに杏子が残していった錠剤シートを差し出す。

キヨさん「これ、あんちゃんがあんたに渡せって……」

アヤカ「あんちゃん？(キヨさんの隣の席を見る)」

そこは一一空席(透き通ったタオルがいるが、アヤカには見えない)。

アヤカ「(首を傾げて錠剤シートを見て)……(顔色が変わった)」

2 「居酒屋らくまつ」前(夜遅く)

ハルオ「お疲れっす！」

仕事を終えたハルオが店内から出てくると、アヤカが立っている。

アヤカ、すたすたと来て、いきなりハルオの頬を平手打ちする。

ハルオ「な、なんすか！」

アヤカ「杏子さんのカレシだなんて嘘でしょ！ どうしてそんな悲しい嘘の片棒担ぐの！」

ハルオ「(返す言葉がない)」

アヤカ「(怒りの表情でハルオを睨んでいる)」

3 杏子の家・玄関(翌日)

杏子がドアを開くと、アヤカが立っていた。

アヤカ「(硬い表情で一礼し)ハルオ君に聞いて来ました……」

4 犀川の河川敷

歩いていく杏子とアヤカ。

アヤカ「(錠剤シートを差し出し)母も同じ薬飲んでました」

杏子「飲んでました？」

アヤカ「あたしが高校生の時に亡くなったんです」

杏子「……そう」

アヤカ「杏子さんの病気、母と同じでしょ？ 病気のこと、オネエ所長やサオリさんに伝えたんですか？」

杏子「教えてたら、あの人もサオリも悲しむ。いつか分かる時は来ると思うけど、悲しい時間は短い方がいいわ」

アヤカ「あたし、大切な人に何も教えてもらえないまま、逝かれてしまいました」

× ×

インサート——トオルの笑顔。

× ×

アヤカ「その気持ち、杏子さんに分かりますか」

杏子「あなたにはもうすぐ死ぬ人間の気持ちが分かる？ このことは誰にも話さないで(ピシヤリと言って踵を返す)」

アヤカ「(言葉を失って見送るしかない)……」

#5 「居酒屋まわりみち」店内(別の日)

客にオネエ所長、菜摘、サオリがいる。

サオリ「お母さん、ひと芝居打ってまで離婚したかったのね。どうするの、おっさん？」

オネエ所長「どうするって離婚してしまったんだもの、どうしようもないじゃない」

アヤカ「(オネエ所長に)……あの」

× ×

インサート——杏子「このことは誰にも話さないで」

× ×

アヤカ「……いえ、なんでもないです」

オネエ所長「ねえ最近、キヨさんの顔、見ないわね」

末吉「キヨさんなら倒れて入院したわ。アヤカちゃんとお見舞いに行ってきたんやけど、だいぶ悪いみたいやった」

アヤカ「あたしたちのことも分からないみたいで……」

末吉「認知症がまた進んだんやな」

アヤカ「交通事故で亡くなった奥さんと娘さん、まだ生きてるって思ってるんです。それで二人に会いたって謔言みたいに言ってました」

オネエ所長「(傍らの菜摘に)あたしたちもキヨさんのお見舞い、行こうか」

#6 キヨさんの病室

点滴と酸素吸入をするキヨさん——を囲むオネエ所長、菜摘、サオリ、アヤカ。

キヨさんの目にはオネエ所長と菜摘が妻と娘に見える。

キヨさん「智子、文子！」

オネエ所長「(キヨさんの手を握って)早く元気になって下さい、あなた」

菜摘「(も同様に)病気が治ったら一緒に遊ば、お父さん！」

キヨさん「おう、約束や(と両手の小指を出す)」

オネエ所長、菜摘と指切りげんまんするキヨさん。

その光景を――涙を浮かべて見ているアヤカとサオリ。

7 病院の待合室

歩いてくるアヤカ、オネエ所長、菜摘、サオリ。

菜摘「(オネエ所長に)あんなウソついて、針千本飲まされない？」

オネエ所長「平気よ、なっち。優しい嘘は許してもらえる」

そんな二人を見つめているアヤカ。

× ×

インサート――杏子の思い詰めた横顔(# 4)。

杏子「いつか分かる時は来ると思うけど、悲しい時間は短い方がいいわ」

アヤカのOFF「杏子さんの嘘も悲しくて、優しい嘘」

× ×

オネエ所長「(何かに気付いて)……」

病院を出て行く杏子の後ろ姿。アヤカやサオリ、菜摘は杏子に気付いていない。

オネエ所長「(怪訝に見送って)……」

8 キヨさんの病室(夜)

穏やかに瞑目しているキヨさん。

アヤカのOFF「その夜、キヨさんは眠るように天国に旅立ちました」

9 虹のたもと

キヨさんがやってくると、タオルが立っている。

キヨさん「あんちゃん、見送りに来てくれたんか」

タオル「(深々と一礼して)長い間、お疲れ様でした」

キヨさん「一緒にあっちに行くまいか」

タオル「オレはまだこっちでやることがあるから」

キヨさん「ほんなら先行くぞ」

虹の向こうでキヨさんの妻と娘が満面の笑みを浮かべて手を振っている。

虹を渡るキヨさんが30代ごろのキヨさんに若返っていく。

キヨさん「(駆け寄って)智子！ 光子！」

智子「お父さん、遅かったね！」

キヨさん「すまんかったな。でも、これからはずっと一緒や！」

仲良く虹の彼方に消えていく家族3人の背中。

10 「居酒屋まわりみち」店内(開店前)

カウンターの拭き掃除をしているアヤカ。

アヤカ「(ふと手をとめて)キヨさんが言ってた `あんちゃん、って誰なんだろう」

そんなアヤカをカウンター席に座ったトオルが穏やかな眼差しで見つめている。